

OKAME STYLE



丘女会報
「OKAME STYLE」
第7号
令和4年1月発行
編集 丘女会広報部
TEL : 092-561-0662

「人前に入るのも無理！」を大逆転 作詞作曲から語りまで一人で演じる琵琶奏者

筑前琵琶奏者 れいしやうりゅう 嶺清流 おおとり座主宰

52回生 ほんごうみき たかぎせいほう 本郷美季【高木青鳳】さん

■今のお仕事は？

筑前琵琶をやっています。講師と演奏、楽器の普及活動が主な仕事です。師匠から「青」の字をいただいて「青鳳」という号名で活動しています。

■なぜ琵琶？

4歳からエレクtoon、中学校では吹奏楽部で、ずっと五線譜で音楽をやっていました。高校では歌が好きで歌っていたけれど社会人になると、機会や時間が持たなくて2年目のとき「何か息抜きに趣味をつくらう、楽器をやろう」と思って探したら「公民館に琵琶のサークルがあるよ」と言われて「せっかくなら人がやっていないものを」と思って行ったのが最初です。大学時代にお神楽を見て「日本の楽器もいいなあ」と感じていたのが「琵琶」と聞いたときにピタッとハマりました。

ハマりました。

仕事は九電の事務で女子寮に入っていました。琵琶は「土日に稽古すればいいや」と思っていたけれど、寮では音が出せない。時間が取れない。それがものすごく苦しくて、もどかしい、たまらなくなって。それで、29歳で会社を辞めました。

■高校、大学時代は？

おとなしいと思われていたと思います。3年生のときは、人から推されてお針子リーダーに。でも、自分で「やります」というタイプじゃない。母子家庭で親から「家から通えるいい大学、いい会社に」と言われ続けて、九州大学の経済学部に行きました。自分で決めきれなかったことがずっと引っかかっていたけれど、それが琵琶を始める原動力になったのかもしれません。

■琵琶の魅力は？

小学生の頃から声が低いのがコンプレックスで、人前で歌うことが一番苦手でした。喋るのも。でもやりだすと、最初は嫌だったけれど、何だか楽しくなってきました。

**「苦手なところが実は強みよ」と
教えてくれたのが琵琶**

ある時「あなたの声素敵ね、琵琶に合っとうよ」と言われて、そこから気持ちが変わりました。一人で1時間、2時間の公演をすると「こんな気持ちでこの曲をつくりました」「琵琶はこんな楽器で

す」と喋らないといけない。初めての時ドキドキしながら準備していったら、「話がおもしろかった」と。達成感もあって「話すの楽しいかもしれん」と、初めて違う自分に会ったような思いでした。苦手なことにチャレンジして、できるようになったのがすごく嬉しかった。

琵琶が自分の夢を叶えてくれる

作曲は自分がしたいこと、自分の色が出せるのが楽しい。琵琶って、台本も自分で書けるし、「ここで見せ場をつくらう」とか、舞台演出も演奏も歌も全部自分でできるんです。もう一つは、琵琶は古典とか、平家物語とか言葉が難しい。最初私も演奏を聴いて「かっこいい！でも何て歌いよるか分かん」と思ったんです。だから自分で作曲や作詞ができるようになったら、初めての人にも分かりやすく楽しめるものにしたいと思っていました。それに加えて、琵琶をやっていることで普通の生活では行けない場所、会えない人に会えます。琵琶が引き合わせてくれます。夫との出会いも琵琶がきっかけでした。結婚は遅かったけれど、2人の子どものにも恵まれて何もかも琵琶のおかげです。

■今からやりたいことは？

**伝統に拘らず、子どもでも楽しめる
舞台を作りたい**

幼稚園児にでも分かるくらいの、親しみやすいものを作りたい。子どもが生まれて「子どもって、こんなに細かいところまで見とるっちょろうか」ってそんな目があるうちに、いろんな楽器やいろんなものに触れてほしいです。その中に琵琶が入ったら嬉しい。琵琶は音楽に歌も語りも入るので子ども用にやれば楽しめるものになります。伝統などに拘らず、自分の好きなようにやっていいんじゃないかなと思うんです。

■高校生へメッセージ

自分が苦手だと思うことに、たまにいいから手を出してほしいと思います。苦手だと思っていることの中に強みがあることがあります。うらやましいと思うこともやってほしい。そう思うということは、自分にその要素があるから。なりたいたいだから、なったらいい、なろうとしてほしいです。



< Profile >

高 52回生
九州大学経済学部卒業

- 2004年 九州電力株式会社 入社
- 2005年 筑前琵琶を故・青山旭子に師事
- 2011年 九州電力株式会社 退社
- 2015年 NHK 邦楽オーディション合格
- 2016年、2018年「くまもと全国邦楽コンクール」奨励賞
- 2018年 「日本琵琶楽コンクール」第1位
- 2020年 嶺清流筑前琵琶おおとり座 創設
- 2020年 第1子出産
- 2021年 第2子出産



弁護士の知識でいろんな活動を

一般財団法人筑紫丘高校同窓会奨学財団 専務理事

野中・西村法律事務所 弁護士

にしむら せら ようこ

45 回生 西村(世良)洋子さん

■筑紫丘高校同窓会奨学財団とは？

平成30年より、同窓会の役員にお声かけいただき、現在は理事として同窓会運営のお手伝いをしています。その中で、同窓会では平成24年から在校生進学支援のため卒業生からの篤志・総会運営収益等を原資に教育支援基金を設立し、在校生支援を続けてきたことを知りました。創立百周年に向けてもっと発展させるために、各種法人の役員や顧問としてかかわってきた中での法的知識が少しでもお役に立てばと、財団設立・運営のためのお手伝いをすることになりました。そして、令和3年4月に森田一義先輩が理事長を引き受けてくださり、「一般財団法人筑紫丘高校同窓会奨学財団」が設立しました。

高校時代にはそれぞれの色んな育ち方がある中で、様々なアンテナを伸ばして、どんな方向へでも育つ時期だと思えます。育つ芽を伸ばすお手伝いのひとつを同窓会や奨学財団が担えるならば、卒業生としてこれに勝る幸せはありません。

弁護士になるきっかけは、
父親から
「弁護士は人の役に立つ職業」と
言われたこと

高校時代は吹奏楽部で部活一色でした。勉強する時間もないほど熱中し、コツコツと勉強を積み上げていく理系クラスの成績は芳しくありませんでした。本好きが幸いして国語の成績は良く、3年の2学期に文転。法学部に入学し、法律書・裁判例を勉強する中で法律学の面白さに気づきました。

丁度就職氷河期に重なり、男性はどんどん就職が決まっていく中で女性は苦勞多い時代でしたので、公平な結果の得られる司法試験を選び、勉強に没頭しました。司法試験に合格する直前の1~2年間は一日15時間勉強に費やしました。法律書や判例集を読み、論理的に考える訓練を積み、ひたすら勉強に没頭してきた時間は純粋に楽しくもありました。

弁護士の仕事のひとつ
ルールは従うものではない、
作るもの

弁護士になってもうすぐ20年になりますが、民法(債権法、家族法)、刑法等々法律は社会の動きで変化してきました。また、法律知識だけではなく社医学、心理学、社会学、社会福祉制度等、他分野の知識も重要です。さらに弁護士は全人格的な仕事だと思っていますので、文化芸術等自身が興味を持った分野はすべて仕事上役に立っていると感じます。

例えば、高齢者・障がい者の権利擁護も自己決定へという流れへと変わる中で、法律知識だけでは本人の支援としては不足です。犯罪被害者支援とりわけ性暴力被害の事件では、被害に遭っても被害届を出さず泣き寝入りしている人が統計上8割と知ったときには衝撃でした。そんな中で、4年前、当時の福岡県会議員の堤かなめ先輩(高31回生)と性暴力被害者支援活動を通じて知り合いました。被害者を支援する具体的法律がないのならば地方自治体で条例を作ろう、ということで、性暴力被害者や支援者、弁護士たちと福岡県に犯罪被害者支援条例と性暴力根絶条例を作るための陳情書を提出しました。平成31年の「犯罪被害者支援条例」令和2年の「性暴力根絶条例」制定に結実。さらに、この性暴力根絶条例に基づく性暴力の加害者にも被害者にもならないための教育を国が真似て、令和3年から内閣府と文科省の共同施策「生命の安全教育」になりました。条例を作る中で、弁護士のシンクタンク的な機能を果たせた例だと自負しています。

同窓生で弁護士の夫と
結婚、出産、子育て

勤務弁護士として仕事を始めて4年目に筑紫丘高校卒業生でもある同業の夫と結婚、その後別の事務所でパートナーとして働く中で出産。子育てのため夫と同じ事務所に移籍して現在に至ります。今は仕事一辺倒ではなく2人の娘を育てる時間も作りながら働いています。

■高校生へメッセージ

私は自分自身に何ができるのか、何がやりたいのかを一生懸命考えながら、その都度出会ってきたものを大切にしてきました。高校時代の私は、自分一人の能力を磨いて上へ向かおうとする傾向がありました。しかし社会に出てみると、自分一人だけで抱え込まずいろんな人たちと一緒にやっていくことも、先へ進む大切な方法の1つだとわかりました。縁あって同窓会に関わり始めて母校の素晴らしさと感謝の念を感じています。同窓会は皆さんの応援団です。3万人以上を数える同窓生たちと豊かなコミュニケーションを築いて、どうか先の未来を切り開いていってください。



< Profile >

高 45 回生

九州大学法学部法律学科卒業

2003 年 弁護士登録

久留米市で法律事務所勤務の後、現在は福岡市で勤務(企業法務、倒産事件(企業民事再生等)、行政事件(自治体側)、一般民事、犯罪被害者支援等)

日本弁護士連合会犯罪被害者支援委員会
事務局委員



丘女会のシンボルマーク
おかめ桜の花言葉は「豊かな教養、善良な教育、しとやか、理知に富んだ教育」

「紹介してほしい人」を募集します

OKAME STYLE は年2回の発行を予定しています。今後の紙面に取り上げてほしい卒業生をご紹介します。自薦、他薦どちらでも構いません。「こんな素敵なお友達がいます」「この人の話が聞きたい」。多数のご推薦をお待ちしています。

広報委員長 小川訓名(高36回生)

連絡先：同窓会事務局 oka.dousoukai@gmail.com

時間を忘れて夢中になることがあれば、
人生は辛くても、
どうしようもないくらい楽しい

AREIA MUSIC 代表
音楽家、サクソ奏者 Stage Name ^{メイシコ} Maysico
^{かわぐち みちこ}

36 回生 河口実知子 さん

大学に行かないと決めて入学した
高校時代
ミュージシャンになると決めて
やったこと

中学の時、高校受験も近くなった頃、漠然と将来はどうしても音楽をやりたいと考えるようになっていました。渡辺貞夫氏に憧れ、サクソを吹きたいと入学してすぐ、吹奏楽部に行ったのですが、当時「サクソには女子は入れない」と断られました。高校入学してすぐに中央区に引っ越したばかりで自宅の横が某有名キャバレーでいつも音楽が聞こえている環境。当時は生バンドで多くのミュージシャンが出入りしていて、サクソを教えてもらっていました。そこでやっぱり自分は音楽大学に行ってクラシックをやりたいわけでもないと思い超進学校でも、大学受験しないという初志貫徹を決めました。

■多くを学んだ3年間

私は3年間一回も補習に出ませんでした。進路相談の際、親には随分苦言があったでしょうが、そんな話を親から聞いたことはありません。『なぜ受験しない？お前はいったい、この学校に何をしに来たのか？』そんな質問をされたこともありました。3年生の後半受験シーズンは行き場がなくて、図書館にすることが多く、以前から興味があったスペイン語を独学しました。音楽を志しても“がおか”に行ったのは、勉強ができると思ったから。大学に進学せず、学校には迷惑をかけたかもしれないけれど、今も好奇心と向上心だけは忘れていません。それは自分の頑張りもあったけれど、“がおか”という学校の環境のおかげだと思っています。

18歳の私は、そうして東京へ行き
今年56歳になった

高校卒業と同時に上京。専門学校とアルバイトしながらの音楽活動が始まりました。練習場所がなくて、たまたま学校の授業で一緒になった女性ドラマーが母校の大学のビッグバンドに誘ってくれて、学生でもないのにリードアルトを4年間やりました。それから、当時はバ

ブル時期終わり頃とはいえまだまだ仕事があり、本当にいろんな経験をしました。得意なことは作曲で1日何時間でも楽しくてできます。作曲に関しては天職だと思っています。サクソ教室を始め生徒さんが集まるようになるのですが、生徒一人一人にあったレッスンはオリジナル曲メインで演奏します。音楽はサクソに限らず、一人でやってもつまらないかなって思うのです。会社を立ち上げ25周年の記念公演何しようかな？と思った時、メンバーが楽器を持ってお互いに台詞を演奏したら面白いだろうな、という話が上がって、お姫様の恰好をして、という話から突然思いついたのが、シンデレラを題材にした、インストウルメンタルミュージカル「燃えがら姫」。たくさんの曲を作りました。

世界初インストミュージカル
「しゃべるのは楽器」
登場人物の台詞はすべて演奏で構成

■「燃えがら姫」とは？

「燃えがら姫」とは「シンデレラ」の日本の古い表記です。今、男も女も平等の世界。シンデレラって、玉の輿に乗って、女の子が結婚して幸せになる話。意地悪なお姉さん達も出てきます。今の時代それは違うなと思って、どんな人にも悔しいなって思うときもあるけれど、誰でも幸せになる権利があって、自分にふさわしい居場所にいるっていいよねっていうようなラストに変えています。コロナで緊急事態宣言中公演そのものに工夫が必要で、大変だったけれど有料配信もしています。

インストミュージカルに関する解説記事は、アレイアミュージックホームページの

<https://areiamusic.com/blog/instrumental-musical-cinderella-2/>



< Profile >

高 36 回生

1984年 上京後、様々なバンド活動の傍ら、RockからJazzFieldまで数多くのアルバム・楽曲の録音に参加。

1996年 Areia Sax Council 設立。サクソレッスンをスタート。

1999年 自己の音楽活動名義を Maysico Alternate Works とし数多くのオリジナル曲を作曲、演奏。

2008年 hiroyo(Vocal&Pf)と女性二人組 Brazilian Jazzユニット Duas Jóias 結成。

2009年 Duas Jóiasとして、1st Album 「Duas Jóias」をリリース。

2011年より iTunes はじめ世界各国のデジタルサイトで配信開始。

2021年3月、アレイアミュージックカウシル 25周年を記念して、世界初の試み、インストウルメンタルミュージカル 燃えがら姫を制作。全曲作編曲を担当。個性的な楽曲とオールラウンドなプレイスタイルにあわせ、ディレクター&プロデューサーとしてのバランスを持つミュージシャンである。

に記載しています。

さらに自分の作品をたくさん作って、自演し、世界を演奏してまわりたいと思っています。インストミュージカル然り、自身のストレートなスタイルの音楽も然り音楽を連れて、移動の多い人生を送っていきたくです。

■高校生へメッセージ

不思議に思うことを大事にしてほしいと思います。例えばインターネットでも「そうなんだ」って信じてしまうけれど、「おかしくない？」って思ったり、自分で考えたり感じたりすることってすごく少ないような気がします。今、インスタとか流行っていますが、写真を撮ることに専念してしまって、本来のその前の自分の目で見て、五感で感じたりすることが飛んでいるように思えます。自分の目で見たり、聞いたり、空気を感じて考え、その中で「どうしてだろう？」と感じたりすると自分の世界がまた変わると思います。

限界集落の「生きる力」に魅せられて 得意なことで水源地の山を守り、藍を育てる

アイカラ
「藍と樹の工房 i-cara」代表、NPO法人「共和のもり」理事

よしだ えとう ようこ

32 回生 吉田(江藤) 洋子 さん

■今の活動を教えてください

この山です。最寄りの駅から歩いて1時間半、80世帯位で限界集落寸前の大野山の上に住んでいます。標高400m位、山自体は723m。ちっちゃな集落なのにものすごく活動が活発なところです。水源の森を守る活動をするNPOで経理やイベントの企画・運営、他にも地域団体の仕事をしています。

藍染が自分の軸になっていますが、仕事はパソコンを使ってできること

■これまでの経歴は？

高校時代は学校から遠くに引っ越してから、休みがちだったけれど体育祭だけは大好きでした。3年連続で赤ブロック。チアガールもやったかな。3年の文化祭の頃までは化学部でした。大学は九州大学理学部生物学科。好きなのがそれしかなくて。当時パソコンが始めで面白く思ってシステム開発の会社に就職。転職してコンピュータ関係の営業や国家資格の講座指導員をやったり、中小企業のPR映像を制作していました。ITです。今もオンラインで映像やホームページを作っています。どこにいてもできる仕事だから、行きたいところに移住しようと思ったのかな。

■移住のきっかけ、藍のこと

**山の魅力は自分がちっこい生き物
だなんて実感できること**

映像の仕事で徳島出身の東京で藍染をやっている方を取材して、その藍染が本当に素晴らしくてどっぴりはまりました。色落ちはしないし洗えば洗うほどむしろ濃くなる。なんて素敵なんだろう、って。10年くらい前から、当時住んでいた藤沢市で自分で蓼藍(たであい)を育てながら、藍染に向く場所を娘とあちこち探して水が綺麗な大野山を知りました。その時この山で山地酪農を始める女性と出会って娘のほうが行きたいって、一緒に移住しました。娘は美大で就職活動を始めた3年生で、やりたいことを地域の人を巻き込んで形にしていく人たちと出会っ

て、ものすごく心が動いたんですね。彼女のここに来たいと思った決意が、私の後押しをしてくれました。娘は山の仕事を覚えながら牧場を手伝い、美大での勉強を活かして看板やチラシなどデザイン関係を手伝っています。

ここでは悩みがあっても毎日玄関に出て相模湾を眺めるだけで「ああもういいや、今日は今日だ」という気持ちになれます。知らない鳥が来たり、虫が生まれたり。毎日、毎季節、刻々と変わる自然。すごく毎日がおもしろい。この地域は動植物も含めてみんな家族みたいです。よくそういう表現を使うけれど本当にこういうことだなんて思いました。

**藍染は生き物。藍染に出会って
「生きている物」が好き、って分かった**

藍染って、インディゴを含んだ蓼藍の葉を発酵させて乾燥させた「すくも」を、微生物が染められる状態にする、生き物なんです。すくもを「灰汁建て(あくだて)」とって、木を燃やした灰などでアルカリ性にします。すると「インディゴ還元菌」の働きで染まる状態になり、時々日本酒とか小麦のふすまなどをあげながら育てる。生き物だから糞の中を毎日朝晩、かき混ぜないと死んじゃって染められなくなる。液につけた布を引き上げて酸素に触れさせるとアルカリ酸化反応で、ばあって青くなるんです。藍染は生き物の力で染まる。結局それで分かったのが生きている物が好きなんだ、ということでした。

**今、自分が一番大事にしたいことは何か、
それに素直に従うしかないって思う**



娘さんと一緒に藍染体験講師



< Profile >

高 32 回生

九州大学理学部生物学科卒業

1985年 システム関連会社入社
1988年 (株)リクルートRCS事業部へ転職
1991年 結婚、出産
1992年 (株)ベネッセコーポレーションへ転職
2008年 映像制作
2011年 映像、ホームページ制作会社設立
2018年 神奈川県足柄上郡山北町(駅前)に移住
2020年 同町、丹沢山系大野山に移住(共和地区)

・NPO法人「共和のもり」理事
(事務局、経理、サイト運営)
<http://kyouwanomori.com/>
・共和福祉バス運営会役員(事務局、経理)
・共和連合自治会副会長(経理)
・藍と樹の工房 i-cara 代表
<https://www.i-cara.net>

移住したいと思っても、妨げになる要因はたくさんありますよね。私も車の運転ができないから無理、と思ったけれど、一番強い思いのために他の全てを調整したり、あきらめたりしました。

今まで大事なことをどう言い訳してあきらめてきたか気付いたんです。今しかできないことは今やったほうがいい。もっと若いときにやりたかった。

**ここに暮らしがあることがすごく素敵。
なくならないように、私が得意なこと、
できることで頑張りたい**

山に人が住まなくなると住宅と同じで一気に荒れてしまいます。できるだけ長く人の住む山を維持したい、そのために若者たちが食べていける林業を軸とした事業を興したいという夢があります。

■高校生へメッセージ

自分に素直に、とことん何が大事か、何が得意か、何でもみんなに喜んで欲しいかを考えてできる方法を選んでほしい。得意なことで周りに喜んでもらえるのが、生き物としての幸せだなんて思うから。それを見つけるには高校生が一番向いている時期だと思う。そこに燃えてほしいです。

編集 後記

・今回も充実した取材でした。いろんな人生でもやっぱり「丘女」の根底は同じなんですね。次号もお楽しみに。(小川)
・インタビューを文字にすると1万字以上。今回もいいお話がたくさん聴けましたが原稿は上限1800字。ぜひそれぞれのゲストのサイトにアプローチしてみてください。(太田)

【制作】丘女会広報部：小川訓名(高36)、太田由美子(高32)、米澤一江(高49) デザイン：藤田明子(高39)

※制作ボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は広報スタッフもしくは事務局までご連絡ください。